

# ズーム・アップ

電線工業会専務理事  
阿部 茂信氏



「電工会は歴史ある団体（1948年設立）であり、団体職員は初めてなので緊張感もあるが、新しい仕事に取り組み興味、楽しさもある」と、何事も前向きな阿部さんらしい。「個社ではなく、全体最適を基本に業界発展に尽力したい。職員も少人数なので、チームワークを優先。明るく楽しい雰囲気作りも心がけたい」と付け加える。

古河電工時代は、海外赴任も長い。中近東では「フルタートンキー（工事込み）で高圧電力ケーブル、O F ケーブル拡販

などに約7年間取り組んだ。さらにその後の約7年間は、香港で中国での新しいビジネス街作りへの製品提供に奔走。「収めた電線が中国の発展に貢献したことは誇りであり、苦労はあったが今でも良い思い出」と、インフラを支える電線への思いは熱い。

続いて自動車用ワイヤーハーネス事業に係わり、フィリピンやベトナムへ。この間、コロナ禍によるロックダウン対応などの難題解消に取り組

み、「従業員や顧客と共に乗り切った時の感動は今も忘れない」。

電工会が掲げる重要課題でもある商慣習改善については、汎用電線分野の経験は少ないが、その重要性は十分に認識。「今までのやり方でなく、市場環境の変化に合わせた

## 電線通し社会貢献の気持常に 体重維持にウォーキング

方向性、在るべき姿について会員と共に議論しながら具体化を進めたい」と意欲を示す。

電線産業、および業界の社会的位置付けについては「残念ながら正しく評価されていない」との認識で、そのためにも「伝えたいことを伝えるように伝えたい」ことを重視する。何事にも真摯に取り組む、細やかな配慮をいとわない阿部さんらしいセリフだ。そのため、販売量や物流形態把握のための流通業者や、ユーザーとの情報交換にも積極的に取り組む。

古河電工への入社は、大学時代の留学先、南米ブラジルのリオデジャネイロとサンパウロに古河電工の生産拠点があつたこと。「社会発展に貢献したい」と思っていた阿部さんの心に、強く響くものがあつたようだ。そんな阿部さんが現在、大

これらにより「正しいことを互いに理解、認識することで品不足問題再発生につなげたい」。さらには、人材確保難解消や電線ケーブル盗難防止などでは、関係省庁との連携緊密化にも力を入れる。

古河電工への入社は、大学時代の留学先、南米ブラジルのリオデジャネイロとサンパウロに古河電工の生産拠点があつたこと。「社会発展に貢献したい」と思っていた阿部さんの心に、強く響くものがあつたようだ。そんな阿部さんが現在、大

古河電工への入社は、大学時代の留学先、南米ブラジルのリオデジャネイロとサンパウロに古河電工の生産拠点があつたこと。「社会発展に貢献したい」と思っていた阿部さんの心に、強く響くものがあつたようだ。そんな阿部さんが現在、大

切にしている言葉は「一所懸命やれば、だれかが見ている」と先輩から言われ、守り続けており他の人にも「このことを大切にしてほしい」。

職場が変わり、少し時間的余裕ができたことから「忙しいを言い訳に」、これまでできなかった好きな読書を再開した。また、「少しやせようと思つて」始めたウォーキングは、1日1万歩以上を心がける。その成果もあり、「順調に体重は減つてい

付けることも忘れない。だが、宴席で話はずむ阿部さんの姿を見ると、時間とともに会員からの誘いが増えそうな気がして、他人事ながら心配になる。

月上智大学外国語学部卒業、同年4月古河電工入社。2016年4月古河電工執行役員、19年4月古河電工執行役員、電装エレクトロニクス統括部門自動車部品事業部門専門自動車部品事業部長、20年4月古河電工執行役員常務、電装エレクトロニクス統括部門自動車部品事業部門長兼古河A S社長を経て、24年4月から古河電工自動車部品事業部門アドバイザー。福井県出身、63歳。

趣味〓読書、国内の現存天守閣のある城巡り、ゴルフ▽好きな言葉・Motto〓The Reward of Suffering is Experience (苦みの代償は経験であり、経験が成功への鍵)